

## 病院を進化させるために

ほげい船原稿 平成 23 年 10 月

平成 23 年も残すところあと数ヶ月となりましたが、今年は東日本大震災、台風 12 号に伴う豪雨など、大きな災害が我が国を襲い多大な被害を受けました。

そのような中、10 月に国立病院総合医学会が岡山で開催され、この学会のスローガンは「明日の医療のために：チャレンジそしてチェンジ」でした。

チェンジという単語は、先の米国の大統領選でオバマ氏の代表的な言葉として流行語にもなっており、米国民もそのチェンジに大きな期待を抱いていたように思います。しかし、国民にとって期待通りにはなっていないようで、米国各地でのデモの様子が毎日のように報道されています。

国という大きな組織はもちろん、病院という単位でも、組織をチェンジするということは簡単なことではありません。組織を変化させるには、問題点を抽出し、解決のためにチャレンジし、その結果チェンジを起こすことができると考えます。つまり、チャレンジはチェンジのためには必要不可欠のことだと思いますし、チャレンジそしてチェンジは私達の病院にとって継続していくべき重要なテーマであります。

「できることから始めよう！」は国立病院機構の QC 活動のスローガンですが、これは職務・職責を超え互いに協力し合い、様々な業務の改善や質の向上に取り組むことを目的としたもので、毎年、優れた功績に対して総合医学会において表彰が行われています。

高知病院から報告した QC 活動もしばしば優秀賞を受賞しておりますが、今年も 4 階南病棟の「ベビーマッサージでハッピースマイル」が選ばれました。もちろん表彰されることが目的ではありませんが、QC 活動に積極的に参加していくことが重要であり、そのためには改善すべき点を受け身の立場ではなく自主的に見つけ出し解決方法を具体的に筋道をたてて組み立てていくことが必要です。

また、同じように個人においても「できることから始めよう」を実践することで成長することが可能と考えます。職員一人一人が、日常の仕事のなかから自らの目標をたてそれに挑戦していくことで、変化し進化することができると思います。

「チャレンジそしてチェンジ」「できることから始めよう」言葉はこととなりますが、新しい世界を作り出ししていこうとする意識を意味しているように思いますし、このフレーズは社会、組織、そして個人すべてに当てはまるように思います。医療も多くの問題を抱え大きく変化していくことが想定されます。

高知病院がこの流れの中で地域に信頼される病院として存在していくためには病院職員一人一人がチャレンジそしてチェンジを意識し、できることから始めようのスローガンのもと病院チーム一丸となってよりよい病院に進化させていかなければなりません。こちらからも、今まで以上に職種を超えお互いに協力し合い患者さんにとって、また、職員にとってもすばらしい病院となるよう頑張っていきましょう。